

No. 1

事業名	CHALLENGE 21
事業の特徴	青年の家を拠点とした主に青年対象の地域活動リーダー養成

実施機関名	北海道立青年の家
連絡先	〒074-1273 北海道深川市音江町2-7-1 TEL 0164-25-2059 FAX 0164-26-3600 URL http://wa.manabi.pref.hokkaido.jp/doritu/
事業規模	都道府県（政令指定都市を含む）
事業主体	社会教育施設
事業のテーマ分野	若者のボランティアリーダー養成

1 事業の概要

CHALLENGE 21は、青年活動やボランティア活動に興味・関心のある高校生・大学生から成人を対象に、Part 1からPart 3までの3回の講習を実施する。

- ・ Part 1 事業運営に関わる安全管理を、普通救命講習や事件事例から学習
- ・ Part 2 事業における企画立案のポイントを学んだ後、小学生対象の事業「遊楽校（ゆーすくる）くらぶ ～地球も一つの家族～」の企画立案
- ・ Part 3 事業運営の体験と活動による検証



安全管理の学習



事業の企画立案の実際

Part 1、Part 2 で学んだ成果をPart 3 で生かすことができる構成を特徴としている。

また、本事業に参加した者のうち、希望者には、ボランティアとして、道立青年の家の主催事業の運営協力等、更なる実践の機会を提供するとともに、活動や研修の場についての情報提供と参加者間の交流、青年の家を拠点とするネットワーク作りを進めている。

2 事業の趣旨、目的

CHALLENGE 2 1 は「学んだ成果を生かす生涯学習の推進」を目指し、青年活動やボランティア活動に興味・関心のある高校生・大学生から成人を対象に以下の4点を目的に企画された。

- ・青年団体の活動やボランティア活動に必要な知識や技能の習得
- ・青年団体の活動に対する協力・支援
- ・地域活動に目を向けた青年の学習の場づくりとネットワークの活用
- ・主催事業の運営協力等の実践の場や機会の提供

以上により、ボランティアや、地域活動のリーダーとしての実践力の資質向上を目指している。21年度は重点として、「リスクマネジメントの理解、小学生対象事業の企画と運営に関する知識・技能の習得」を掲げて事業を実施した。

3 事業の内容

(1) 学習の内容

① Part 1

1泊2日の日程で、「事業及び活動におけるリスクマネジメント」について学んだ。

1日目は、地区消防本部による普通救命講習と、カヌーインストラクターから野外活動における安全管理について具体的な事例を交えながら学んだ。夜は参加者が抱える活動の課題などについて情報交流を図った。

2日目は、実際に野外に出て、野外教育を専門とする大学准教授の指導により安全管理についてフィールドでの検証を行い、前日の学びを深めた。

② Part 2

1泊2日の日程で「事業企画の立案」についての講義と実践に取り組んだ。

1日目は、青少年教育施設の社会教育主事の指導により、事業参加者の年齢構成や事業の意図を踏まえた企画づくりの留意点、プログラム上のアクティビティの位置づけと効果などについて学んだ。



Part 1 ちらし

2日目は、実際に運営を体験する主催事業「遊楽校（ゆーすくる）くらぶ～地球も一つの家族～」のプログラムの趣旨と構成について共通の認識を深め、担当部分のアクティビティの企画に取り組んだ。

③ Part 3

2泊3日の日程で実際に「遊楽校くらぶ～地球も一つの家族～」の準備と運営に取り組んだ。

1日目と2日目午前、参加者は、企画案の確認後、「巨大双六」や「だるま落とし」など、小学生が体験する活動について、役割毎に準備を進めた。

2日目午後から3日目は、役割分担に従い、実際に事業運営を体験した。

参加者の事業に対する総合的な知識を高められるよう、参加者の受け入れなど事業全体での運営協力の場面を設定した。

最後に振り返りを行い、今年度の活動や今回の事業について検証し、今後の活動への意欲化を図った。

(2) 学習成果を活用したボランティア活動等の内容及び推進の方法

青年の家では、ボランティア活動に必要な知識や技能の学習の場と機会を提供するとともに、ボランティア活動の希望者に、主催事業の運営協力として、成果を活用する場を提供することにより、実践力を高めるための支援を行っている。

このことにより、ボランティア団体、青年団体をはじめ、高校生、大学生、青年などの未組織者の活動への支援も目指している。



Part2 ちらし



Part3 ちらし



Part 3



施設ボランティア風景の活動状況

(3) 推進体制等の仕組み

CHALLENGE 21では、年3回の事業と並行して、以下4つの活動支援を通年で展開している。

- ①運営協力などの活動の場の提供と紹介
- ②施設外の研修の場の紹介や講師の派遣・紹介
- ③自主企画事業の企画・運営に関する支援
- ④ネットワークづくり、団体間の交流の促進

支援に当たっては、道立青年の家駐在の社会教育主事及び指定管理者職員が事業参加者及び団体と継続的な関係が築けるよう配慮している。

4 成果と今後の取組

本事業を実施したことによる成果及び今後の取組は次のとおりである。

成果

- ・自主企画事業において、アイスブレイクにアクティビティ運営で学んだ声掛けの技術が生かされ、仲間づくりを促進することができた
- ・リスクマネジメントで学んだ危険予知がプログラム細案に安全対策として位置づけられ、実践することができた
- ・参加者同士がアクティビティに関する意見交換の手段としてメールを活用するなど、ネットワークを形成したことで、今後の事業展開における新たな発展性を見出すことができた

今後の取組

- ・参加しやすい日程の設定
- ・団体や個人の多様なニーズに応えたプログラムの開発
- ・複数の団体が青年の家を拠点に活動することによるネットワークの形成

【執筆者の職・氏名】 北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課 青年の家グループ
社会教育主事 濱出 充